

追儼儀礼の中の呪文

廣 田 律 子

神と心を通わせる為に唱えごとをする。神の名を呼び、願いを述べ、供物を受け取ってくれるようにと唱う。願いごとをかなえてくれるかどうか神の意志を確認する為に占いを行う。

願いごと、つまりこうあれかしと思うことは、家内安全、昔は科挙及第、今は入試合格、豊作、商売繁盛、子授かり、長寿、無病息災、家畜繁殖、火災無く、盗みに合わぬよう多方面の加護を求めて唱える。

願いごとは呪文ともなり、こうあれかしと思うことが言葉に発せられ唱えられることで、そのようになると考えられる。

追儼の祭りの中では、司祭役と追儼にかかわる宗教演劇の演者は同じである場合が多い。祭りは大抵の場合、唱えごとをして神を呼び出し、願いを伝え、供物と演劇で神を喜ばせ、悪いものを祓ってもらい、また神にお帰り頂くといい構成をとる。この中で司祭の唱える呪文に焦点を当ててみる必要性を感じる。今回は江西省南豊県

の上甘村の追儼の祭りで唱えられる呪文を例にとって紹介する。注(1)

【上甘村の秘儀】

祭りは正月一日から十九日まで四つの段階に分かれる。一日「下殿」、一日―十四日「跳儼」及「装儼」、十六日―十八日「解儼」、十九日「安座」となる。中でも呪術性の強い「解儼」を説明しよう。解儼は「家中解儼」と「殿上解儼」に分かれる。

家中解儼は、十六日、十七日に上甘村の家々で行われる追儼の儀礼である。てんこもりのご飯の上に豚の肉を載せた供物が用意される。追儼の演者達が家に入り、まず祭壇のロウソクの炎を見て、その家のその年の吉凶を占う。注(2)

灯の内が赤、外が白 外孝のあることを意味する。

(「孝」の解釈の一は「喪」、
「外孝」なら自家以外の親戚

灯の内が白、外が赤 などの家に喪があるの意。
自分の家に喪があることを意味する。

灯（の炎が）左へ偏る うるさいことがあることを意味する。

灯（の炎が）右へ偏る うるさいことがないことを意味する。

灯の内と外ともに白い 内外とも喪があることを意味する。

灯の内と外の縁が赤い めでたいことがあることを意味する。

次に『発弓』『難公難母』『捉刀』を演じる。『発弓』

は二郎神が弓を射ることで辟邪の意味を表現する。『難公難母』は生産や子授かりの豊かなことを表現する。

『捉刀』は、鷹歌元師、田螺大王、捜除大仙の三神が登場し、鉄の鎖で邪悪なものをとおりおさえ、また剣をふるう所作をし、邪をはらう追難の表現をする。また厨房の追難を依頼する家もある。

殿上解難は、十八日の晩に難神廟でとり行われる。朝のうちから村人達が廟に訪れ、願かけや願もどしを行う。その願かけの唱えことは次のようである。注(3)

謹んで考えますに、神の道は遠くあらず、虔誠な心を持つていれば、（神さまは）お分かり下さると存じます。

す。神の聖力は遥かにあらず、齒を叩きますと神さまは答えて下さいます。謹んで心を込めたお香（心香）を焚いて、一心にお出ましを請います。勅封西川路口清源妙道真君、千里眼、順風耳、金花小姉、銀花娘、三伯公公、三伯婆婆、金毛童子、鉄甲將軍、難神会上のすべての明神の御来臨を請います。開山大神、白祇大神、魁星大神、紅面小鬼、青面二鬼、七雷大神、馬、趙、関、温の四大天將、和合、唐僧、哪吒太子、福祿寿文曲星君天師、関平、周倉將軍、金大齊天田螺大神、饒公、饒婆、吞魔食鬼樓厨大神、難神啓教歴代今古老幼宗師、殿内の香火を享ける文武の神、本殿の土地神、すべての神祇、適神はともにこの広い御座、高い祭壇にお出ましを請います。どうぞ心のこもったお香を御受納下さい。今は○年○月○日○県○堡の信士。虔しく心のこもったお香や貴重なロウソクを備えて御座の前に並べます。敬しく○○の名を以って、赤い長い着物一着を難神殿上に奉納致します。自身にかかったすべての病気を悉く払って、早く全快し、自分の命に当る星が明るくなり、寿命が延長するように御加護をお祈り申し上げます。――占――ここに紙銭一重ねを諸大神に謹んで捧げます。銭は少ないが、大きくなり、多くなるかと存じ、文点文才、病気が早く愈るようにお祈りします。

午後四時頃に、全ての面が段に並べられ、茶の葉に水と酒を加えたもので仮面を拭き清め、また並べられる。神の降臨を催促するが、この時の唱えごとは次のようである。注(4)

催、催、催、本坊の福主及び遠近の社令(土地神)、上下のこの土地を守る英雄烈士は一斉に来られますように願います。

十五回太鼓と鐘が叩かれるが、この時一回ごとに太鼓と鐘の叩き方に決まりがある。また司祭は靈字を描く。十四回目に弟子達が廟の外に出て線香を水口までの道にさす。これは神々の通り道を清める意味があるという。

次にかみまぎを唱える。とても長いが、以下に記す。

注(5)

至誠の心が大道(大法、神の法力)に通じ、誠意が高真(神さま)に達します。ロウソクを燃して聖駕(神のお乗り物、神のお出まし)を迎え、香を焚いて聖輿(神の輿)を迎えます。今夜弟子敬しくこの廟堂で心の込めた香(心香)を備え、神さまの御来臨を請います。江西省建昌府南豊県○〇県主城隍尊神、文武の神方、各殿の香火を享ける明神、東西南北の四関で土地を守る神、県にある官廟の礼典を司る神祇、この廟の庭に御光臨し、すべて御座にお就きになって下さい。―占―

石背街上下福主、社令(土地神)、この辺の坊や廟におられるすべての神祇、西台山合殿の香火を享ける明神の御来臨を請います。涇浦街観音閣救苦救難觀世音菩薩、全殿の香火を享けるすべての神祇、福主、社令、各殿の香火を享けるすべての文武神祇の御来臨を請います。

軍江橋殿内救苦救難靈感觀世音菩薩、全殿の香火を享ける文武の神、すべての明神の御来臨を請います。

羅家胡同東排二岸の福主、社令、閔聖帝君、全堡の神さま、すべての有感明神の御来臨を請います。

大排上上下堡の福主、社令、東西二岸の祀典を司る神祇の御来臨を請います。

楊梅砦の福主、社令、すべての神祇の御来臨を請います。

將軍嶺、李將堡の福主、社令、東西二岸の諸々の神聖、嶺上の將軍さま、開枷脱鎖(くびかせを脱いだ)の兎子郎君、祠典を司る知事、本殿の土地神、すべての有感明神の御来臨を請います。

池源堡水口の福主、社令尊神、万寿宮旌陽で道を得た許仙真君、全般の香火を享ける東西本坊の福主、橋頭下の福主尊王、軍山老爺、李氏夫人、文武の二人の判官、本殿の三聖、(三人の神) 飲善大師、鶯哥元帥、金水郎君、土地公々、すべての有感明神、港背の社公・

社母（土地神夫婦）、すべての有感明神、狗腦嶽の腊射老爺、金毛童子、鉄用將軍、本殿の土地、一切の神祇、塔嶽岨仙軍菩薩、裏坑頭の冷壇三聖（三人の神）、神君順隣、後の堂上、難神会上の文武の神、すべての有感明神、大塘塙上の聖主三郎、本殿の土地神、崇福古寺の三尊古佛、十八羅漢、二傍四帝尊神、上殿の地藏王、觀世音、文殊（原文、文王）菩薩、如来古佛、監善主者、達摩祖師、護法金剛、全寺の香火を享けるすべての有感明神、左傍丹陽で道を得た甘氏真人、劍印二仙、五方で道を得た、雨を降らす竜王、一緒に御座に到ります。すべての有感明神、上街頭何子上の李氏夫人、文武の二人の判官、本殿の土地神、すべての神祇、社公、社母、上街頭の趙大元帥、樓上の文昌梓潼帝君、全殿の香火を享けるすべての明神、李家店の將軍さま、開枷脱鎖の兔子郎君、土地公、すべての神祇、大塘城上の西山で道を得た許仙真君、雨を降らす竜王、土地公さま、春草園の協天関聖大帝、関平、周倉大帝、本殿の土地神、御前のすべての神祇、一緒に御座に到りますよう御來臨を請います。

本坊の福主、上の水源から、下の水尾まで、壇があるが迹がなく、迹があるが壇がない者、林の上から請うた者、林の下からお招きした者、あるいは御名前が知られない者、御咎めにならないで、御一緒に御座に

就いて下さい。一占一

再び心を込めた香を焚いて、西嶺上殿の大得禪師菩薩、下殿の飛天三聖公王、勸禪大師、土地公公、すべての神祇、楓樹嶺の觀世音菩薩、桐樹灣の福主、社令土地公さま、各殿の香火を享けるすべての神祇、下坊堡欄柵前塘角上七尊太子（原文、太子）、漢皇上帝、本殿の土地及び後園堡の福主、社令土地、すべての神祇、前街背の甘氏真人、劍印二仙、全殿の文武の神、すべての神祇、樓下塘角上の福主尊主、李氏夫人、土地公公、社公、社母、すべての有感明神、大陂頭將軍老爺、作陂嶺の一聖二聖、飛天三聖公王、本殿の土地擂鼓潭の許仙真君、觀音閣の靈感觀世音菩薩、橋上の觀世音菩薩、側殿の地藏王、土地公公、全殿のすべての明神、作陂嶺羅家田角上の白馬、三聖公王、魏家窠の福主尊神、山下堡の飛天三聖公王、福主尊神、社令、甘氏真人、劍印二仙、すべての神祇、野鷄山の飛天（原文、非天）三聖神君、山灣堡塘角上の軍上老爺、李氏夫人、本殿の土地、社公、社母、すべての神祇、竜頭山角上の白馬三聖公王、鄧家厰の飛天三聖神君、塘家辺の白馬三聖公王、軍將坑の七尊太子（原文、太子）、漢皇上帝、本殿の土地、すべての神祇、樟樹下の一聖二聖公王、格排石井排の冷壇三聖公王、洋下の將軍さま、煙竹山の冷壇三聖公王、天子地の飛天（原

文、貳)聖公王、丹陽觀の三清上帝、法主老爺、清源妙道真君、甘氏仙師、外殿の護駕三聖、雄鷄相門冷壇三聖公王、何坑の白馬三聖公王、何坑尾の飛天三來殺(原文、熬)神王師公。紅家山の七尊太子、漢皇上帝、飛天(原文、非天)三聖、すべての神祇、大港前塔下の猪母大神、周家園の福主尊王、松樹下の軍山老爺、土地公公、東陂の白馬三聖、獵牯石の飛天(原文、非天)三聖、万鐘嶺上の飛天三聖、溪岩堡の福主、社令、すべての神祇、竹園樹林下の福主尊神、源頭高樓の大神福主、社令、すべての神祇、勘頭嶺坏倒のすべての有感明神、高門坑頭の冷壇三聖公王、御來臨を請います。

本福主、上の水源から、下の水尾まで、壇があるが迹がなく、迹があるが壇のない者、あるいは御名前が知られない者、すべての神祇、壇上に御來臨を請い、壇前にお招きをしたことを、御察し下さり、御來臨下さいます。どうぞこの広い御座、高い祭壇で、心を入れた香や貴重なロウソクを御受納下さい。清潔なお茶やお酒、心を込めた御飯(原文、後心素飯。厚心の誤りではないか)、お菓子やお肴、お皿においしい鶏や魚や、お菓子の盆やお土産の酒、珍奇な食物、珍しい御馳走などを神さま方の御座の前に並べて捧げます。快く御笑納を願います。どうぞ御咎めにならないで下

さい。弟子はお茶を召し上げる前に敢えて申さず、酒を召し上がってから申し上げます(原文、茶錢不敬說、酒後乃開言。茶前と酒後が対照になる)ここに、光緒〇年〇月十八日夜、福主さま方の御來臨を請い、全坊の信士たちの家が清吉、戸戸が平安であるように御加護をお願い申し上げます。一年の十二月、いつも平安で、一日十二時間、いつも吉祥をもたらして下さい。読書人は聡明で知慧があり、功名を求める者は早く金榜に名が載せられ(科挙に及第)、耕作者は種は一つ撤くと、万粒の豊作、技芸者は前の家が招き、次の家が迎え(いつも仕事がある)、商売人は一分(一錢)を元手にして、万分の利息を得、外出して貿易する者は立派な人に逢い、貴人が助けてくれ、どこへ行っても順調になり、子授けを求める者は早く子宝が生れ、望がかない、長寿を祈る者は百年の長寿になり、医者 は心が鋭敏で正しく脈を取り、薬を患者に飲ませれば全快になり、幼い子供たちは厄の関や鎖りから脱し、麻疹や痘病にかからないで、輕疎薄種[?]耕牛を飼養する者は朝(牛を)山の崗に放牧し、暮に牛小屋に帰らせ、険しい処に行かず、不吉の処にも行かないで、豚小屋の豚が、天からの風に吹かれてすくすくと成長し、地からの風に吹かれて大きくなり、日に千斤に成長し、夜に万兩に成長し、豺狼虎豹が遠く他の地方へ早く避

けて行き、瘟疫などが早く他郷に行つてしまひ、鶏や鴨を飼養する者は、一羽の雌鳥が前に向うと、百の雛鳥がついて、一行一行が群になり、一隊一隊が対になり、鷹が近よらず、狐が入らない。諸々の大神は一坊の福主でおられ、千万家の運命を司り、月に千人の礼拝を受け、いつも民衆の保障になり、山河を固く守り、水口を固く守ります。好いことを沢山もたらして、悪事を速に遂い払います。火災が水によつて消され、盜賊が打取られ、訴訟がなくされ、口論が止められ、悶着が起らず、異端邪法が即刻消滅され、この地で留つてはならず、遠い処へ追ひ払います。祈願者がいれば、お願い申し出ると、すぐ答えて下さり、祈禱すれば、すぐ靈驗があります。すべての事が如意、すべての願がお思ひのままになります。弟子に損をかけないで下さい、信士に損をかけないで下さい。すべて神さま方の御加護に頼ります。聖筈の御加護を願います。一占一神さま方、肴が冷く、まずくなり、香も冷えて煙がなくなり、まもなく壇に登つて跳躰を御覧になつて下さい。聖筈の御加護の願ひ、道に香を挿し、跳躰が終りますと、ドラや太鼓を下して、大塘塙上で下馬して下さい。

この時占いを行う。最後に弟子が池のはたで神の到来を促す唱えごとをして、太鼓とドラを鳴らして廟に戻る。

次に『兎弓』『雛公雛母』『捉刀』が演じられる。最後に搜除大仙と鷹歌元師と田螺大王は、追躰を終え、廟を走り出て池の端に行き搜除大仙の面を池の方に掲げ、邪悪なものを水に追ひ払つたことを表現する。道に紙銭を燃やし、占いをし、廟に戻る。

廟の前では二カ所で紙銭が燃やされ、鵄性の師公と甘性の師爺の為とする。

廟内でも紙銭を燃やし、爆竹を鳴らし、神送りの唱えごとをする。注(6)

重ねて申し上げます。遠近の福主、各部の大神、壇におられる文武の神、すべての神祇、今、雛は己に圓滿に終り、ロウソクが尽き、灯が燃え残り、肴が冷たくなり、酒の味が淡くなり、実にお粗末で失礼致しました。御咎めにならないで下さい。わざわざ起馬分才の備えをして、謹んで神さま方は早く御帰途に就くようにお見送り致します。天におられる方は雲や霧に乗つて自由に去来し、地におられる方は馬の手綱をひきしめて、鞭を揮い、車をもっている方は車にお乗りになり、車のない方は馬を仕立て、各々仙境にお帰りなさい。弟子は敢えて神さま方を長くお引留めを致しません。聖筈が地面に落ちます次第、神さま方は早くお帰りになつて下さい。弟子は敢えて多くしゃべることを致しません。水口具有、起馬分財、神さま方にお渡し

致します。秘訣水口界分?

足で鬼の文字を書く。また廟を出て字を書きながら、鼓とドラを叩き、神を水口まで送り、紙銭を燃やし、占いをする。

廟では、仮面やとりものなど全て箱に納める。その後歴代の雛班王の霊に感謝し、祝言を述べる。鬼子飯を食べると言って、全員で直会をする。解雛は以上で終りとなる。

雛神廟で祭られているのは、清源妙道真君で七十センチ程の武将の姿をした木彫の神像である。この清源妙道真君とは、隋の時代に治水に功があつた趙昱が、宋の真宗の時に加封され清源妙道真君とされた、二郎神と同一と思われる神である。注(7)

家々で跳雛を行う際に祭壇に祀られる、雛神の化身の雛患と称される人形は、高さ二十センチ程で、男性性器を有している。演目中の「雛公雛母」の表現からも、子授かりと子孫の繁栄を意図する祭りの一面が見てとれる。福祿寿をはじめとし、上甘村では数多くの神々の面を伝えているが、三十四種合わせて七十一面になる。全て文革中に焼失し、その後一九七八年以後に作り直されたものである。面に刻された神々は、開山、白祇、黒須判、小鬼、二鬼、張天師、馬元帥、超元帥、関元帥、温元帥、周倉、猿精、佛祖、唐僧、孫悟空、猪八戒、沙和尚、哪

吒、懐胎和尚、瘦骨羅漢、烏眉羅漢、笑眉羅漢、露齒羅漢、和合、雛公、雛婆、福星、祿星、寿星、鷹歌元帥、田螺大王、搜除大仙で、なお文革前には紅須判と関平もあつたという。呪文の中に呼び出される神も仮面の神も仏教、道教、民間の諸神が混在している。

以上の呪文の中で呼び出され、仮面でも現われる神の内、特長のある神として元帥また將軍があげられる。

『道教事典』の元帥の頃には、

義死または枉死した者が死後に元帥号を受け、辟邪や地域の守護に効験を顕わす神として祀られたもの。

とある。注(8) 人間の死霊が神として祀られることは、菅原道真をはじめとして日本にも見出すことができる。

中国でも特定の地域と結びついて、英雄として語られ、神として祀られ、人々を邪悪なものから守護する神がいる。同じ江西省の万載県の例をあげると、ある人物が人によりついて言葉を発し、自分を神として祀れば守護を約束する旨を伝え、それを受けて人々は仮面を彫して、御神体とし、追雛を行う將軍神としてあがめる。民間では絶えず神々が生まれ、將軍や元帥の称号のもと、人々を守護しているのである。地元では、霊験のあらたかな強い神として、辟邪の中心的存在となり、仏教や道教等で名の知れた神々よりもかえって信仰を集めていたりする。

注(1)

呪文は上甘村の追儼の演者達に手書きで伝えられている。今回原文を注に示し、本文では訳文を示した。今後の補訂も必要と考える。

注(2)

灯籠主外孝。灯籠主内孝。

灯撮左主口舌。灯撮左無口舌。

灯籠主内孝。
灯籠主外孝。灯籠主吉慶。

注(3)

伏以神道不遠度、誠須知、聖力非遥、叩齒即応。謹焚心香、一心拜請。勅封西川路口清源妙道真君、千里眼、順耳、金花小妹、銀花娘、三伯公公、三伯婆婆、金毛童子、鉄甲將軍、儼神会上一斉明神、拜請。開山大神、白祇大神、魁星大神、紅面小鬼、青面二鬼、七雷大神、馬趙関温四大天將、和合、唐僧、哪吒太子、福祿寿、文曲星君天師、関平、周倉將軍、金大齊天田螺大神、鏡公、鏡婆、吞魔食鬼樓厨大神、儼神起教歴代今古老幼宗師、殿内香火文班式列、本殿土地、一功神祇、適伸、奉請涼沐來臨、寬座高壇、受納心香。今及○年○月○日○縣○堡信人。虔備心香寶燭、列在座前。敬為○○名下、叩許紅袍一件、入於儼神殿上。祈保○○身中諸症、悉除病患早安、星辰光顯、壽命延長、等事。

一占一

具有錢才一会拜上諸位大神。錢才虽少、化大成多、[?]点分才病患早安康。

注(4)

催促、催促、催促、請来本坊福主、遠近社令、上下前後英烈來臨。

注(5)

至心通大道、誠意達高真。燃燭迎聖駕、焚香迎聖輿。今夜弟子茶就廟堂、虔備心香、敬心拜請。江西省建昌府南豊鼎○○主城隍尊神、文班武列、合殿香火一切有感明神、東南西北四関守士、在臬宮廟礼典神祇、光降廟庭、普全到座。一占一
請来石背街上下福主、社令、辺坊廟貌一切神祇、西台山合殿香火有感明神。請来淫浦街觀音閣救苦救難觀世音菩薩、合殿香火一切神祇、福主、社令、及文乃武各殿香火一切神祇。請来軍江橋殿内救苦救難灵感觀世音菩薩、合殿香火乃文武一切有感明神。請来羅家街東排二岸福主、社令、関聖帝君、合堡一切有感明神。請来大排上上下下堡福主、社令、東西二岸祀典神祇。請来揚梅砦福主、社令、神祇。請来將軍嶺、李將堡福主、社令、東西二岸諸位神、聖嶺上將軍老爺、開枷脱鎖童子郎君、知事祀典、本殿土地、一斉有感明神。請来池源堡水口福主、社令尊神、万寿宮旌陽得道許仙真君、合殿香火東西本坊福主、橋頭下福主、尊王山老爺、李

氏夫人、文武二判、本殿三聖、勸善大師、鶯哥元帥、金水郎君、土地公公、一切有感明神、港背社公、社母、一切有感明神、狗腦嘍猪射老爺、金毛童子、鉄用將軍、本殿土地、一切神祇、塔嶸哈仙軍菩薩、裡玩頭冷壇三聖、神君順礫後堂上、雛神会上乃文武、一切有感明神、大塘塋上聖主三郎、本殿土地、崇福古寺三尊、古仏、十八羅漢、二傍四帝尊神、上殿地藏王、觀世音、文主菩薩、如來古仏、監善主者、達摩祖師、護法金剛、合寺香火一切有感明神、左傍丹陽得道甘氏真人、劍印二仙、五方得道騰雨竜王、共同到座。一切有感明神、上街頭何子上李氏夫人、文武二判、本殿土地、一切神祇、社公、社母、上街頭趙大元帥、樓上文昌梓潼帝君、合殿香火一切明神、李家店將軍老爺、開枷脱鎖兔子郎君、土地公公、一切神祇、大塘城上西山得道許仙真君、行雨竜王、土地公公、春草園協天閔聖大帝、閔平、周倉大帝、本殿土地、御前一切神祇、普同到座。請來本坊福主、上至源頭下至水尾、有壇無跡、有跡無壇、林上所請、林下所召、或有不知名姓者、莫為怪責、普周到座。一占一再焚心香、拜請西嶺上殿大得禪師菩薩、下殿飛天三聖公王、勸善大師、土地公公、一切神祇。楓樹嶺觀世音菩薩、桐樹灣福主、社令土地公公、各殿香火一切神祇、下坊堡欄桅前塘角上七尊大子、漢皇上帝、本殿土地、及後園堡福主、社令土地、一切神祇、

前街背甘氏真人、劍印二仙、合殿文武、一切神祇、樓下塘角上福主尊主、李氏夫人、土地公公、社公、社母、一切有感明神、大陂頭將軍老爺、作陂嶺一聖二聖、天三聖公王、本殿土地、擂鼓潭許仙真君、觀音閣靈感觀世音菩薩、橋上觀音菩薩、側殿地藏王、土地公公、合殿一切明神、作陂嶺羅家田角上白馬三聖公王、魏家筭福主尊神、山下堡天三聖公王、福主尊神、社令、甘氏真人、劍印二仙、一切神祇、野雞山非天三聖神君、山灣堡塘角上軍山老爺、李氏夫人、本殿土地、社公、社母、一切神祇、竜頭山角上白馬三聖公王、鄧家厥非天三聖神君、塘家辺白馬三聖公王、軍將坑七尊大子、漢皇上帝、本殿土地、一切神祇、樟樹下一聖二聖公王、格排石井排冷壇三聖公王、洋下將軍老爺、烟竹冷壇三聖公王、天子地天聖公王、丹陽觀三清上帝、法主老爺、清源妙道真君、甘氏仙師、外殿護駕三聖、雄鷄相門冷壇三聖公王、何坑白馬三聖公王、何坑尾天三來殺神王師公、紅家山七尊太子、漢皇上帝、非天三聖、一切神祇、大港前塔下猪姆大神、周家園福主尊王、松樹下軍山老爺、土地公公、東陂白馬三聖、猪牯名非天三聖、万鐘嶺上非天三聖、溪岩堡福主、社令、一切神祇、竹園樹林下福主尊神、源頭高樓大神福主、社令、一切神祇、勘頭嶺坏倒一切有感明神、高門玩頭冷壇三聖公王。請來本福主、上至源頭下至水尾、有壇無跡、

有跡無壇、或有不知名姓、一切神祇、壇上所請、壇前所召、諒沐來臨。寬座高壇、受納心香、宝燭。千茶淨酒、後心素飯、糝果葷穀、胡盤牲雞鮮魚、菓合礼酒、珍饈美味、烈在衆神座前。繞祈歆容笑納、莫為怪責。

弟子茶錢不敢說、酒後乃開言。茲当光緒○年○月十八日夜、請來請位福主、祈估合坊衆信人等家家清吉、戶戶均安。一月十二月月保平安、一日十二時時降吉祥。誦書者、聰明知惠、來功名者、早登金榜、農耕者、一

子落泥万子收成、做技芸者、上家相請下家相迎、做生意者、一分為本万分為利出、外貿易者、好人相逢貴人相扶、脚踏四方方吉利、求嗣者、早生貴子、母得懸望、保寿者、百千長寿、行医者、心靈脈準、藥到病除、幼小孩童、開閔脫鎖、易無養麻丹疹痘、輕疎薄種、畜養耕牛者、朝放山崗、暮歸欄場、險处莫走、凶处莫行、頭供猪天風吹長、地風吹大、日長千斤、夜長万兩、豺狼虎豹、遠避他方、瘟風瘴疫、速往地鄉、供雞養鴨、一母向前子隨後、行行成群、隊隊成雙鸞、鷹不敢近、狐狸不敢入、列列大神、為一坊之福主、掌万姓權行、日受千人礼拜、時為衆民保障、把定山河、固守水口、好事多招進、惡事速速趕出、火星打落壬癸水、賊盜打落大空亡、官訟消散、是非埋藏、牙尖嘴快、立刻消亡、異端邪法、即時追滅、不許存留境內、速速趕出他方、若有祈愿者求之即時應、禱之即靈、事事如意、愿愿隨

心、莫悞弟子、莫悞信人、全賴諸神蓋佑、總求聖筭保佑。一占一諸位神聖、殺冷無味、香冷無煙、少刻登壇看跳、又求聖筭保佑、插路香、跳完、下羅下鼓、大塘塩上下馬分。

注(6)

重申上啓、遠近福主、各部大神、在壇文武、一切神祇、令乃難週圓、燭尽灯殘殺冷酒淡、簡褻深、莫為怪責、特備起馬分財、拜送諸位大神、早登雲路。在天者、騰雲駕霧、在地者、勒馬搖鞭、有車駕車、無車駕馬、各返瑤宮。弟子不敢留聖駕。聖筭落地、諸神速起。一占三回一不敢多言句。水口具有起馬分財、送交諸位大神。伝秘訣水口界分。

注(7)

野口鐵郎等編『道教事典』平河出版社 一九九四年

P 二九一

注(8)

前掲書 P 二九一